

総括整理表

調査年度: 2020年度(R2)

緑の回廊名	緑の回廊 三国線	回廊-3		写真1 No.4林分写真		写真2 平標山小屋から恵比寿大黒ノ頭方向		写真3 No.7林分状況
管轄森林管理局・署名	関東森林管理局 利根沼田森林管理署・吾妻森林管理署・中越森林管理署							
所在地	群馬県・新潟県・長野県の県境の三国山脈 【利根上流森林計画区・吾妻森林計画区・中越森林計画区】							
面積	13,109.14ha							
設定・変更年	設定年: 2002年(平成14年)							

緑の回廊概況写真		緑の回廊の概要等		過去のモニタリング実施概況	
	緑の回廊の概要(設定目的)	<p>緑の回廊 三国線は、おもに群馬県、新潟県、長野県の県境となっている三国山脈に設定されている。利根川源流部・燧ヶ岳周辺森林生態系保護地域、佐武流山周辺森林生態系保護地域をつないでいる。回廊の長さは約56kmにわたり、面積にすると13,109.14haとなる。</p> <p>2020年度は、現地調査として、2002年に設定されている8点の内、No.1、4～7にラインを設定し、樹木・林床植生の生育状況、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況、野生動物の生育状況を確認する森林概況調査を行った。</p>		結果概要(調査実施項目・調査手法含む)	<p>【緑の回廊モニタリング調査(2012年)】 平成14年に設定した8地点で調査されている。 ○樹木の生育状況 ブナ-ミズナラ林3地点、スギ林、カラマツ林、サワグルミ林、スギ-カラマツ林、ブナ林各1地点で調査されている。 ○病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況 8点のうち4点でツキノワグマの爪痕等の野生鳥獣の痕跡が確認されている。 2点でマルバマンサクの葉枯れの病徴が確認されている。</p>
	モニタリング実施間隔				
	法令等に基づく指定概況	<p>水源涵養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林、砂防指定地、国立公園第1種特別地域、国立公園第2種特別地域、国立公園第3種特別地域、国立公園特別保護地区、国立公園普通地域、都道府県自然環境保全地域特別地区、都道府県自然環境保全地域普通地区、都道府県立自然公園第1種特別地域、都道府県立自然公園第2種特別地域、都道府県立自然公園第3種特別地域、都道府県立自然公園普通地域、鳥獣保護区、鳥獣害防止森林区域(ニホンジカ)、国立公園地種区分未定の特別地域(第2種相当)</p>		実施時期・回数	<p>緑の回廊モニタリング調査(2002年(H14)、2012年(H24)) 森林生態系多様性基礎調査</p>

2002年設置No.1までのライン調査

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	聞き取り調査/資料調査	<ul style="list-style-type: none"> 森林面積は回廊の全面積13,109.14haの約50%である6,504.89ha、そのうち天然生林は6,382.41ha(約98%)、単層林82.1ha(約1.5%)、複層林40.38ha(約0.5%)である。 森林の機能類型は、自然維持タイプ4,010.1ha(約61%)、水源涵養タイプ1,151.83ha(約18%)、土砂流出・崩壊防備エリア1,103.57ha(約17%)、森林空間利用タイプ239.39ha(約4%)である。(林地面積6,504.89haを100%として集計)
樹木の生育状況	聞き取り調査/資料調査/概況調査	<ul style="list-style-type: none"> 森林簿を基にした林小班単位の主要林分(林相)は、広葉樹林5,614.25ha(約86%)、次いで針広混交林777.87ha(約12%)、針葉樹林が1.73ha(約2%)である。(林地面積を集計) 林小班単位の林地面積から、主要な構成樹種をみると、ブナが最も多く4,002.59ha(約62%)、次いでヒメコマツ865.74ha(約13%)、モミ499.19ha(約7%)と続く。 天然生林のみで見ると、ブナが最も多く4,002.59ha(約63%)、ヒメコマツ865.74ha(約14%)、モミ499.19ha(約7%)、ヒバ378.23ha(約6%)、ネズコ199.82ha(約3%)と続く。(天然生林6,382.41haを100%として計算) 天然生林の大部分を占めるブナは、林齢120～129が最も広く分布し約2,885haである。 森林生態系多様性基礎調査では、回廊内に4地点の調査報告があるが、悪路に伴う調査未実施等が1地点あり、3地点のデータを確認した。3地点のうち、2地点はブナ林で調査され、残り1地点は、ハンノキ林で調査されている。
林床植性の生育状況	聞き取り調査/資料調査/概況調査	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境保全基礎調査[環境省]によると、今回廊内にはチシマザサ-ブナ群団の植生が広く分布し、このほか、谷川岳の群馬県側にはウラジロヨウラク-ミヤマナラ群団、新潟県側にはササ自然草原が生育している。また、群馬県側にはカラマツ植林も広がっている。 森林生態系多様性基礎調査が実施された3地点では、下層植生の出現種数が最も多い地点で28種、最も少ない地点では7種であった。また、低木層の植生率は高い地点で100%、低い地点で25%、草本層の植生率は高い地点で80%、低い地点で5%であった。

調査項目	調査手法	結果概要
病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況	聞き取り調査/資料調査/概況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・森林生態系多様性基礎調査3地点いずれも病虫害・鳥獣害・気象害は確認されていない。 ・利根沼田森林管理署管内では、三国山山頂南側のお花畑(220ニ1林小班)に、ニッコウキスゲが群生していたが、2013年頃から笹の分布拡大と過去に見られなかったニホンジカ等の摂食の増加によって群落が減少している。そのために、赤谷プロジェクトによりニッコウキスゲ保護のために、シカ柵を設置している(30m四方1か所)。 ・吾妻森林管理署管内では、特に鳥獣害等は確認されていない。 ・中越森林管理署管内では、ニホンジカの生息が拡大状況にあるが、現状では大きな被害は確認されていない。 ・みなかみ町のナラ枯れの拡大。
野生動物の生育状況	聞き取り調査/資料調査/概況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・利根沼田森林管理署では、三国山山頂付近において、赤谷プロジェクトが2008年からセンサーカメラを設置しニホンジカの調査を実施している。2011年9月に生息を確認(2014年に雄を確認)。
普及・啓発の実績	聞き取り調査/資料調査	<ul style="list-style-type: none"> ・利根沼田森林管理署では、山火事防止や不法投棄防止のための巡視や注意標識等の設置。 ・中越森林管理署では、グリーンサポートスタッフが巡視する際、平標山登山者へしおりを配布しながら、登山マナーの啓発を行っている。また、保護林内に生育する一般的な植物等を写真に記録し、活動日誌として署ホームページに掲載。
巡視の実施状況	聞き取り調査/資料調査	<ul style="list-style-type: none"> ・利根沼田森林管理署では、月1回程度巡視を実施、国道17号線沿いは不法投棄の監視、それ以外は奥地であることから道路や登山道からの遠望による。 ・吾妻森林管理署では、年に1、2回程度、遠望からの巡視を行っている。 ・中越森林管理署では、平標山登山道において夏季に月1日の巡視を実施している(グリーンサポートスタッフ)。入込の集中などによる植生荒廃・ゴミの不法投棄の防止等が主な活動内容となっている。令和2年度においては3回の出勤。
森林環境教育の場としての利用状況	聞き取り調査/資料調査	特になし
学術論文	聞き取り調査/資料調査	茅野恒秀(2009) プロジェクト・マネジメントと環境社会学—環境社会学者は組織者になれるか、再論— 環境社会学研究 15(0),25-38

評価・課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の踏査では、ニホンジカによる痕跡等は見られず、病虫害による被害も確認されなかった。 ・森林管理署への聞き取り調査によれば、緑の回廊三国線のふもとにはニホンジカの生息が拡大傾向にあるが、生息密度がまだ低いことから、大きな被害は見られていないとあるが、今後も緑の回廊への影響の変化を注視する必要がある。
--------	--

総括整理表

緑の回廊名	会津山地 緑の回廊	回廊-6		写真1 小川沢線 ルート終点		写真2 小川沢線 ルートで確 認されたナ ラ枯れ跡		写真3 当緑の回廊内で確 認されたツキノワグ マの爪痕
管轄森林管理局・署名	関東森林管理局 会津森林管理署・会津森林管理署南会津支署							
所在地	福島県(奥羽山脈~越後山脈、三国山脈周辺) 【会津森林計画区】							
面積	105,809.24ha							
設定・変更年	設定年:2006年(平成18年)							

緑の回廊概況写真		緑の回廊の概要等		過去のモニタリング実施状況	
	緑の回廊の概要 (設定目的)	会津山地緑の回廊は、奥羽山脈から越後山脈を経て三国山脈等へつながる緑の回廊のネットワーク化を推進する拠点として、里山隣接地を含めて設定されている。 吾妻山周辺森林生態系保護地域、飯豊山周辺森林生態系保護地域、奥会津森林生態系保護地域と、鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊、緑の回廊越後線、緑の回廊日光線、日光・吾妻山地緑の回廊をつないでいる。 面積は約105,809haにおよび、全国最大規模となっている。 2020年度は、現地調査として、森林生態系多様性基礎調査格子点ID:70026(大三本木沢林道)、70055(小川沢線)にラインを設定し、樹木・林床植生の生育状況、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況、野生動物の生育状況を確認する森林概況調査を行った。		結果概要 (調査実施 項目・調査 手法含む)	○森林生態系多様性基礎調査 ・2010年(第2期、第3期)59点確認。1点は悪路のため到達不可。 ・58地点のうち、19地点はブナ林で調査され、9地点はスギ林、7地点はミズナラ林、その他カラマツ林、コナラ林、キタゴヨウ林などで調査が実施されている。
	モニタリング 実施間隔				
	法令等 に基づく 指定概況	水源涵養保安林、土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林、防風保安林、雪崩防止保安林、風致保安林、水源涵養保安林見込み地、土砂流出防備保安林見込み地、国立公園第1種特別地域、国立公園第2種特別地域、国立公園第3種特別地域、国立公園特別保護地区、国立公園普通地域、都道府県自然環境保全地域特別地区、都道府県自然環境保全地域普通地区、都道府県立自然公園第2種特別地域、都道府県立自然公園第3種特別地域、都道府県立自然公園普通地域、鳥獣保護区特別保護地区、鳥獣保護区、文化財保護法に基づく史跡名勝天然記念物、都市計画法に基づく風致地区、鳥獣害防止森林区域(ニホンジカ)		実施時期・ 回数	森林生態系多様性基礎調査

大三本木林道ライン始点

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	聞き取り調査/資料調査	・森林面積は回廊の全面積105,809haの約95%である100,838.99ha、そのうち天然林は70,752.11ha(約70%)、単層林22,766.06ha(約23%)、複層林は7,320.82ha(約7%)である。 ・森林の機能類型は、水源涵養タイプ76,467.49ha(約76%)、土砂流出・崩壊防備タイプ14,409.8ha(約14%)、自然維持タイプ8,281.11ha(約8%)、森林空間利用タイプ1,679.83(約2%)、気象害防備エリア0.76haである。(林地面積100,838.99haを100%として集計)
樹木の生育状況	聞き取り調査/資料調査/概況調査	・森林簿を基にした林小班単位の主要林分(林相)は、広葉樹林68,567.02ha(約68%)、次いで針葉樹林19,802.63ha(約20%)、針広混交林が12,369.64ha(約12%)である。(林地面積を集計) ・林小班単位の林地面積から、主要な構成樹種をみると、ブナが最も多く36,143.63ha(約36%)、次いでスギ17,393.93ha(約17%)、その他広葉樹7,213.47a(約7%)と続く。 ・天然生林のみで見ると、ブナが最も多く35,308.21ha(約50%)、ヒメコマツ12,020.07ha(約17%)、その他広葉樹7,172.04ha(約10%)、天然スギ2,351.1ha(約3%)、コナラ2,299.87ha(約3%)と続く。(天然生林70,752.11haを100%として計算) ・天然生林の大部分を占めるブナは、林齢101年生が最も広く分布し約22,773.5haである。 ・森林生態系多様性基礎調査では、回廊内に59地点の調査報告があるが、悪路に伴う調査未実施等が1地点あり、58地点のデータを確認した。 58地点のうち、19地点はブナ林で調査され、9地点はスギ林、7地点はミズナラ林、その他カラマツ林、コナラ林、キタゴヨウ林などで調査されている。
林床植性の生育状況	聞き取り調査/資料調査/概況調査	・自然環境保全基礎調査[環境省]によると、今回廊内にはチシマザサ-ブナ群団の植生が広く分布し、このほか、落葉針葉樹植林や自然低木群落等が生育している。 ・森林生態系多様性基礎調査が実施された7地点では、下層植生の出現種数が最も多い地点で62種、最も少ない地点では10種であった。 ・また低木層の植被率は高い地点で100%、低い地点で0%、草本層の植被率は高い地点で100%、低い地点で10%であった。
病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況	聞き取り調査/資料調査/概況調査	・森林生態系多様性基礎調査58地点のうち、6地点では雪害の発生が確認されている(標高330mから1100m、斜面方位はNE~S)。 ・鳥獣害は確認されていない。 ・森林管理署への聞き取りによると、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が只見町から南会津町に南下している傾向がある。 ・会津森林管理署では、湊森林事務所管内で野生イノシシにおける豚熱(OSF)発生したことから、管内に入った場合は蔓延防止対策として車両タイヤ等の消毒を実施していたが、令和2年11月末をもって解除となった。 ・南会津支署では、只見町と協力しておとり丸木によるカシノナガキクイムシの駆除事業を行い被害が拡大しないように取り組んでいる。
野生動物の生育状況	聞き取り調査/資料調査/概況調査	・会津森林管理署では、ニホンジカがいるが特段の被害は見られない。クマ、カモシカ、ニホンジカ、イノシシ、タヌキ、キツネ等生息。 ・南会津支署では、南会津町の館岩地区に鳥獣による被害が広がってきている。地元猟友会と協力してくりわな設置し捕獲を行っている。

普及・啓発の実績	聞き取り調査/資料調査	<ul style="list-style-type: none"> ・会津森林管理署では、森林環境教室やイベントを通して、普及啓発活動を実施している。 ・南会津支署では、只見町の布沢地区では集落の有志の方々により組織された森林(もり)の里応援団により運営されている「森林(もり)の分校ふざわ」では山村のくらしを町外の人に経験してもらうことで森林の重要性について啓発している。
調査項目	調査手法	結果概要
巡視の実施状況	聞き取り調査/資料調査	<ul style="list-style-type: none"> ・会津森林管理署では、森林官による巡視(月2～3回)、保護監視員による巡視(年2回)、当該箇所に経常業務があった際の本署職員による巡視(適時)を実施している。 ・南会津支署では、森林官により週2～3日他業務とあわせて巡視を行っている。
森林環境教育の場としての利用状況	聞き取り調査/資料調査	<ul style="list-style-type: none"> ・会津森林管理署では、吹屋山外1国有林2林班には当署「チゴユリの森」があり、福島県教育庁からの要望による県立高等学校初任者研修や地元小学校の要望による森林環境教育を実施している。 ・南会津支署では、只見町の布沢地区では地元の学校等が森林教育の場として利用している。
学術論文	聞き取り調査/資料調査	中村嘉男(1981) 阿武隈山地、奥羽山脈南部山地、南会津山地における侵蝕地形景観の比較. 福島大学教育学部論集 社会科学部門33(社会科学) p1-8

評価・課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・森林管理署への聞き取りによると、カシノナガキクイムシによるナラ枯れの被害が拡大傾向にある。今年度の概況調査でも、ナラ枯れ被害が確認されている。 ・ニホンジカによる大きな被害は確認されていないが、拡大傾向にある。 ・ナラ枯れの被害とニホンジカによる被害共に拡大傾向にあることから、緑の回廊への影響に留意しモニタリングを続けていく必要がある。
--------	--